

Soroptimist International
of the Americas
1709 Spruce Street
Philadelphia, PA 19103-6103



215 893 9000 PHONE
215 893 5200 FAX
siahq@soroptimist.org E-MAIL
www.soroptimist.org URL

白書 「日本におけるソロプチミストのプログラム」

ソロプチミストたちは、地域社会および世界中で女性と女兒の生活を向上させることに献身している国際組織の会員として、女性とその家族や地域社会のためにプラスの変化をもたらすことができます。世界の 120 カ国以上において、約 95,000 人のソロプチミスト会員が、女性と女兒が自らの夢を生きることができるよう力づけています。

日本のソロプチミスト・クラブは、連盟やリジョンのプログラムを通して、女性と女兒がドメスティック・バイオレンスや貧困を克服するのを助けています。「女性に機会を与える賞」や、ドメスティック・バイオレンス・シェルターを支援するクラブの活動などによって、資金や機会に恵まれない女性たちが人生を変えることができるようになります。タイ国から日本に移住したパチャラさんは、そのような勇気ある女性たちの一人です。

パチャラさんは 10 年以上前に来日しました。日本人男性と結婚し、3 人の子供を産みました。しばらくの間は幸せな結婚でしたが、その後、夫がお酒に浸るようになり、暴力をふるうようになりました。どんどん悪化していく暴力に直面したパチャラさんは夫のもとを去り、子供たちと一緒に「HELP」という地元のドメスティック・バイオレンス・シェルターに入居しました。パチャラさんは少しずつ人生の建て直しを始めました。日本語は少ししか話せませんでしたが、ウェイトレスのアルバイトを見つけました。

しばらくして、シェルターを出て、自分自身の住居に引っ越すことができました。他の女性たちを助けたい気持ちから、「HELP」でボランティア奉仕を始めました。日本東リジョンの SI/武蔵野が、こうしたパチャラさんを応援しようと「女性に機会を与える賞」を贈りました。パチャラさんは、さらに連盟レベルの「女性に機会を与える賞」も受賞、10,000 ドルの賞金を使って、日本語を勉強、日本語能力検定に合格し、ホームヘルパーの資格も取得しました。現在、パチャラさんは、区役所の非常勤職員として働くと同時に、シェルターのスタッフとして、ドメスティック・バイオレンス、HIV、人身売買などに苦しむ様々な国籍の人々を支援する活動に取り組んでいます。

受賞してから人生が大きく変わったというパチャラさんは、「自分自身の力を取り戻し、家族を守って子供たちと一緒に成長していくことができるようになった」と話しています。

パチャラさんの体験談は、ソロプチミストが、女性と女兒を向上させることのできるユニークな立場にいることを実証しています。そして、「女性に機会を与える賞」のようなプログラムは、女性が貧困や虐待から、繁栄と安全へと移行するのを助けることができます。

よく聞かれる質問の中には、「どうして女性と女兒だけなのですか？ 男性も男児も苦しんでいるのに」というものがあります。しかし、現実には、世界中のどこにおいても、女性と女兒が貧困、暴力、抑圧の矢面に立っていることのほうが多いのです。次の統計値をご覧ください。

- 世界中で、一日の生活費が1ドル以下という赤貧の中で暮らしている12億人の人々のうち、70パーセントが女性です。¹
- 3人のうち1人の女性が、暴力を受けたり、セックスを強要されたり、その他の形で虐待を受けたことがあります。²
- HIV/エイズに感染している女性は急増しつつあり、現在、1,540万人となっています。これは世界中でHIV/エイズに感染して生きている3,320万人のほぼ半数です。³
- 最近の報告書によれば、性的隷属の目的で毎年国境を越えて人身売買されている60～80万人の人々のうち80パーセントが女性と女兒だということです。別な情報源の推測によれば、この数値は数百万にのぼるとも言われています。⁴

これらの統計値は、女性と女兒に焦点を当てたプログラムの必要を如実に示しています。そして、女性による女性のための組織として、私たち以上に、女性と女兒のニーズによりよく奉仕することができる人々が他にいるのでしょうか。

日本と、日本国内のソロプチミスト・クラブは、女性と女兒の地位を向上させることにおいて、大きな進歩を遂げましたが、やるべきことはまだまだ残っています。次に、日本の女性についての深刻な統計値のいくつかを挙げてみます。

ドメスティック・バイオレンス

- 内閣府の調査によると、回答した20歳以上の日本女性の24.9パーセントが、配偶者や元配偶者などから身体的暴行を受けており、16.6パーセントが、暴言や精神的嫌がらせや脅迫を受けたことがあると述べました。また、いやがっているのに性的な行為を強要されたことがあったとした女性は15.8パーセントに上ります。⁵
- 警察に検挙された配偶者間における殺人、傷害、暴行の被害者の91.7パーセントが女性です（2004年）。⁶

¹ United Nations Development Fund for Women. *UNIFEM Annual Report*. 1996. <www.unifem.org>

² General Assembly. In-Depth Study on All Forms of Violence against Women: Report of the Secretary General, 2006. A/61/122/add.1.6 July 2006.

³ UNAIDS. *ADIS Epidemic Update*. December 2007.
<http://data.unaids.org/pub/EPISlides/2007/2007_epiupdate_en.pdf>

⁴ U.S. State Department. *Trafficking in Persons Report*. June 2008.
<<http://www.state.gov/documents/organization/105501.pdf>>

⁵ 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」2009年

⁶ 独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック」2006年

- 親から身体に負傷を負わされた日本人女性の 40 パーセント以上が、恥の気持ちから、痛みを感じていても、怪我の治療のために医師を訪れることはありません。⁷
- ドメスティック・バイオレンスが、日本人女性の間でホームレスが増えた原因に関連づけられています。⁸ 益々多くの女性たちが、危険で虐待的な状況を逃れるために、路上で生活することを余儀なくされています。

女性の経済的および政治的力

- 女性はまだ、経済力において男性と同等の立場を達成できていません。日本女性の平均賃金水準は男性の約 65 パーセントと格差は開いたままです。⁹
- 日本全国で管理職に就いている女性は 9.7 パーセントにすぎません。これは、高給で名誉ある地位を女性の手の届かないものにしていく「ガラスの天井」という概念を強化するものとなっています。¹⁰

女性と貧困

- 上昇しつつある離婚率によって、貧困のうちに生活する女性の数が増えています。2003 年には、日本では女性が扶養家族を養っている世帯は 122 万世帯で、1998 年の数値からは 28 パーセントの増加となっています。¹¹ 母子世帯の平均年間就労収入は 162 万円、児童扶養手当や生活保護法に基づく給付金なども含めた年間収入の平均は 212 万円で、これは一般世帯の平均所得の約 3 分の 1 です。¹²
- あまりにもひどい貧困状態のために、シングルマザーと子供たちが栄養不良で死亡した例がありました。2003 年には、27 歳の母親と 3 歳の息子が、埼玉県のアパートで餓死していたのが発見されました。そのアパートには食べ物は一つもなく、その女性の財布には 8 円が入っていただけでした。¹³
- 日本の法律は、父親が子供の養育費を支払うことを義務付けていますが、その法を守らせるための機構がほとんどありません。¹⁴ そのため、離別母子世帯の 8 割が養育費を受け取っていません。¹⁵

⁷United Nations Development Fund for Women. *Survey on Domestic Violence*. 2002.

⁸“Female street dwellers tell tales of terror.” *Mainichi Daily News*. October 28, 2002. <<http://mdn.mainichi-msn.co.jp/waiwai/archive/news/2002/10/20021028p2g00m0dm999000c.html>>

⁹独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック」2006 年

¹⁰ 同上

¹¹ Curtin, Sean J. “Japan, Land of Rising Poverty.” *Asia Times*. February 11, 2005.

<<http://www.atimes.com/atimes/Japan/GB11Dh01.html>>

¹²独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック」2006 年

¹³ Curtin, Sean J. “Japan, Land of Rising Poverty.” *Asia Times*. February 11, 2005.

<<http://www.atimes.com/atimes/Japan/GB11Dh01.html>>

¹⁴ 同上

¹⁵独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック」2006 年

女性と女兒の人身売買

人身売買は人目につかず、不法であるという性質上、日本国内で人身売買された女性の数はどのくらいなのかを把握するのは難しいことです。主として、男性に服従的な女性という概念を助長させるような文化的構造のせいで、性差別やセクシャル・ハラスメントも蔓延しています。報告書によれば、次のことがわかっています：

- 日本の性産業は、国民総生産（GNP）の1パーセントを占めており、国家の防衛予算と同額です。¹⁶
- 推定によれば、毎年、10万人の女性が、日本に不法に人身売買されてきており、どの時点でも、日本には、性的搾取の目的のために人身売買された女性と女兒たちが約20万人いるとのこと。¹⁷
- 日本は、主として、性的搾取のために人身売買された大量のアジア、ラテン・アメリカ、東ヨーロッパからの女性と子供たちの受入国です。暴力や死の脅迫、日本語能力の欠如などが、売買されてきた多くの女性が助けを求めるのを妨げています。¹⁸

日本の女兒

日本の女子生徒のイメージは、しばしば、大衆メディアで性的な特徴が強調されており、多くの思春期の女子が、セクシャル・ハラスメントや性的嫌がらせを受けたと報告しています。

- 1994年の調査によれば、約60パーセントの女子高校生と約40パーセントの女子中学生が、口頭による嫌がらせや身体的セクシャル・ハラスメントを受けたことがあります。同じ調査は更に、女子高校生の約7パーセントと女子中学生の約5パーセントがわいせつな行為や性交を強要されたことを明らかにしています。¹⁹
- 「浜銀総合研究所」の最近の報告によれば、十代の売春は4億7,500万ドル相当の産業となっているとのこと。4人のうち3人の女子高校生が、年上の男性からセックスを求められたことがあるという報告もあります。²⁰
- 東京で実施された調査によれば、女子中学生の25パーセントが、「テレフォン・クラブ」（女の子にお金を払って、男性とエロティックな会話をさせるポルノ・サービス）で働いたことがあるという結果がでています。²¹
- 10歳代後半の女兒の性感染症報告数が男児より高く、人口妊娠中絶率は増加しています。²²

¹⁶ Coalition Against Trafficking in Women. <<http://www.catwinternational.org/factbook/Japan.php>>

¹⁷ Musselman, Anson. "Sexual Abuse and Human Trafficking in Japan." 2003. UCLA Center for Japan Studies. <<http://www.international.ucla.edu/article.asp?parentid=5164>>

¹⁸ U.S. State Department. *Trafficking in Persons Report*. June 2005 <<http://www.state.gov/documents/organization/47255.pdf>>

¹⁹ 同上

²⁰ Suvendrini Kakuchi "Japanese Youth Challenge Sexual Exploitation Head On" <<http://www.ipsnews.net/alert/countries/japan1.html>>

²¹ Kristof, Nicholas. "A Plain School Uniform as the Latest Aphrodisiac." April 2, 1997. *The New York Times*.

これらの統計値にはぞっとさせられますが、日本の女性と女兒の状況を改善するために、ソロプチミストのプロジェクトが緊急に必要であることを物語っています。クラブと会員は、SIAの使命を支援することによって、日本中の女性と女兒のために真の変化をもたらすことができます。

例えば、札幌にお住まいのT子さんのような女性です。T子さんは、2002年に離婚しました。夫は子供の養育費を支払うことを拒否し、13歳以下の3人の子供たちを彼女一人で養わなければならなくなりました。「私は特技も仕事の経験もありませんでしたが、生活していくためにはフルタイムの仕事が必要でした」と彼女は説明します。

T子さんは石材採掘会社で仕事を見つけ、毎週60時間以上働きましたが、同じような仕事をしている男性よりも低い給料しか稼ぐことができませんでした。さらに、その仕事は季節に左右されるものだったため、雪の降る冬には、別の仕事を見つけなければなりませんでした。

もっと安定した仕事を得る必要性を認識したT子さんは、トラクターの操縦と火薬の取り扱い免許を取得するために努力しています。免許を取得すれば、もっと良い仕事に就いて、これまでより高い給与を得ることができるようになります。

ソロプチミストの日本北リジョンからの支援のおかげで、T子さんは北海道の教習所の授業料を支払うことができます。T子さんは、リジョンの2005年の「女性に機会を与える賞」受賞者でした。彼女はリジョンから5,000ドル相当、SI/札幌アカシアからは400ドル相当の賞金を受け取りました。

ソロプチミストのプログラム

ソロプチミストの使命、「戦略的計画」、「ルネッサンス・キャンペーン」を支えるためには、クラブが連盟レベルのプログラムに参加し、使命に基づいたプロジェクトや目標を作り出すことが不可欠です。「女性に機会を与える賞」や「ヴァイオレット・リチャードソン賞」のようなソロプチミストのプログラムは、女性と女兒の生活に目に見える変化をもたらし、女性のためのグローバル・ヴォイスとして奉仕するというソロプチミストのビジョンを支援します。

女性と女兒に焦点を当てたプロジェクトを実施することによって、ソロプチミストは、活力にあふれたクラブを作り、新しい会員を惹きつけることができます。また、プログラムのために十分な資金を調達し、一般社会の中で評価を高め、ソロプチミストのブランドを作り出し、そして、地域社会と世界中で女性と女兒の生活を向上させることができるようになります。

● 女性に機会を与える賞

「女性に機会を与える賞」プログラムは、国際ソロプチミストアメリカの基軸を成す奉仕プロジェクトです。この賞は、教育、技能を身につけ雇用の可能性を高めるために使用できる

²²独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック」2006年

賞金を提供することによって、女性たちを助けます。対象は、家族を扶養している女性で、賞金は、教科書、保育費、交通費など、教育を受けている期間にかかるどのような出費の支払いにも充てることができます。「女性に機会を与える賞」の受賞者の多くは、より良い生活を求めて、貧困、ドメスティック・バイオレンス、薬物濫用など途方もない苦難を克服してきた勇敢な女性たちです。全ての受賞者は、自分自身と自分の家族の生活を向上させようとして努力しています。

ソロプチミストは毎年、組織の様々なレベルを通じて、このプログラムの賞金として合計150万ドル以上を授与しています。1972年のプログラム開始以来、数万人以上の女性たちに総額約2,500万ドルの賞金が授与されました。

ソロプチミストの使命を支えるために、クラブが「女性に機会を与える賞」プログラムに参加することは、極めて重要です。日本では「女性に機会を与える賞」の必要性はあまりないと信じている人もいるようです。日本女性は、既に大学教育を受けている場合が多く、賞の応募資格を満たす女性が少ないと主張するクラブがよくあります。しかし、統計によれば、女性の4年制大学の進学率（2005年）は36.8パーセントにすぎません。²³ 娘を大学に行かせることができないほど貧しい家庭も多くあります。わずかな教育だけで自分自身と家族を養っていこうと苦勞している外国からの移民女性もいます。

クラブはまた、日本では私的なことは公表せず、自分の経験を他人に伝えないので、「女性に機会を与える賞」への応募者を見つけ出すのが難しいと報告しています。先頃制定された「個人情報保護法」を、応募者を見つけられない要因として挙げるクラブもあります。しかし、ソロプチミストの方針では、応募者の情報は、審査員とその他のソロプチミストの関係者の目に触れるだけであり、上記「保護法」に従っています。応募者が申請書に記入する情報はどれも、応募者自身からの許可がない限り、公表せずに、極秘に扱われます。米国とカナダでも、数年前から、同様の政策が実施されています。ソロプチミストは、私たちの組織とプログラムについて理解を高めることができるように（そしてそれによって、より多くの女性たちを助けることができるように）、これらの女性たちの体験談を人々に伝えたいと思っていますが、「女性に機会を与える賞」の主要な狙いは、援助を必要としている女性たちを助けることです。

日本のクラブの中には、「女性に機会を与える賞」でプラスの影響をもたらしているクラブもあります。2009-2010クラブ年度には、231クラブがこのプログラムに参加し、日本のクラブレベルの受賞者に89,022ドル、リジョンレベルでは90,222ドルの賞金が授与された、と報告されています。

「女性に機会を与える賞」プログラムへ参加することによって、クラブは、地域社会の女性たちが自分自身と家族の生活を向上できるように、彼女たちを力づけることができます。さらに、クラブによる参加は、応募者の女性たちの体験談を公表できる、できないに関わらず、SIAがそのアイデンティティを築いていくにも役立ちます。

2003年には、「女性に機会を与える賞」プログラムは、「米国組織役員協会（ASAE）」の「アメリカ前進組織賞」表彰プログラムの「卓越賞」を受賞しました。さらに2006年には、このプログラムは、「ASAEの＜協会はよりよい世界を作る＞賞」で佳作に入りました。

²³独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック」2006年

● 女性と女兒のためのソロプチミスト・クラブ助成金

「女性に機会を与える賞」への参加に加えて、クラブは、地元レベルで他のプロジェクトやプログラムに携わることによって、女性と女兒のために変化をもたらすことができます。

「女性と女兒のためのソロプチミスト・クラブ助成金」は、クラブが地域社会で女性と女兒の具体的なニーズを満たすのを助けます。

クラブの力と野心に資金が追いつかないということはよくあります。クラブは、女性および女兒に焦点を当てた既存の活動を支援するか、新しいプロジェクトを始めるために、「女性と女兒のためのソロプチミスト・クラブ助成金」を使用することができます。最近のプロジェクトの例としては、ドメスティック・バイオレンス・シェルターの開設、低所得または職を持たない女性たちのために縫製技術の訓練プロジェクト、薬物やアルコールの濫用から立ち直った女性たちにコンピュータ技能訓練を提供したり生活技術を教えるプロジェクト、ホームレス・シェルターの女性向け棟の建設支援などがあります。

2010-2011 クラブ年度は、ソロプチミストは、32 クラブに対して 17 万 7 千ドルを授与しました。そのうちの 4 クラブは日本のクラブです。SI/博多と SI/春日（日本南リジョン）は、共同プロジェクトである人身売買の被害者である移民女性への多言語ホットラインの運営とシェルター支援に 10,000 ドル、SI/鹿児島（日本南リジョン）は、暴力を受けた女性がシェルターに避難する際に必要な緊急資金を貸し付けるために 5,000 ドル、SI/長野-みすず（日本中央リジョン）は、ドメスティック・バイオレンスの被害者の自立を支援する無利子の貸付金に 3,500 ドル、そして、SI/埼玉（日本東リジョン）は、ドメスティック・バイオレンスや人身売買の被害者である移民女性を支援するシェルターの修繕に 7,000 ドルを受け取りました。

この助成金プログラムの開始以来 2009 年までに、約 276 万ドルの助成金が授与され、それによってクラブは、22 万人以上の女性たちとその家族を助けてきました。これまで日本では 54 クラブが、合計 49 万 3200 ドルのソロプチミスト・クラブ助成金を受け取りました。

このプログラムは、「米国組織役員協会（ASAE）」の「アメリカ前進組織賞」表彰プログラムの「卓越賞」を受賞しました。

● ドメスティック・バイオレンス終結に向けてのソロプチミスト職場キャンペーン

「ドメスティック・バイオレンス終結に向けてのソロプチミスト職場キャンペーン」は、職場の問題としてのドメスティック・バイオレンスについての理解を促進するための継続的活動です。このキャンペーンは、ドメスティック・バイオレンスのシェルターや地元の相談窓口の連絡先などを記入できる DV ホットラインカードをソロプチミスト・クラブに提供します。これは、女性たちが自分自身で被害者であると申し出る必要なく、これらの情報を女性たちに伝えることができる重要な方法です。毎年、何万枚ものホットラインカードが世界中の職場で配布されています。

日本のクラブはカードの配布を率先して行い、ポケットティッシュやキャンディと一緒に配布するなど独創的な方法でカードを女性たちに届けています。延岡のクラブは、ドメスティック・バイオレンスに関する慈善映画会を開催し、その会場で参加者にカードを配布しました。鹿児島島の 3 つのクラブは、協力して、地元の電車の駅でチラシとホットラインカード

を配布しました。また、地元の事業所にも依頼して、給料明細書にホットラインカードを入れてもらいました。

ホットラインカードの配布に加えて、SIAのクラブはさらに次のことを行なっています。職場の問題としてのドメスティック・バイオレンスというテーマに注意を喚起するために、職場で講演会を開催すること、雇用者に協力を求め「DVに関する職場規定」を設けたり、ドメスティック・バイオレンスに関する情報を「就業規定」の中にも含めるように促すこと、などです。クラブはまた、「職場規定」のガイドラインをSIAのウェブサイトからダウンロードするよう奨励されています。これには、職場の問題としてのドメスティック・バイオレンスに関する情報と統計が記載されており、職場規定にドメスティック・バイオレンスについての項目を盛り込むための方法を段階的に説明しています。

● ルビー賞：女性を助ける女性のために

ソロプチミストの「ルビー賞：女性を助ける女性のために」（元「女性に変化をもたらす賞」）は、自分の個人的な活動や職業上の活動を通じて、他の女性や女兒の生活向上に努めている女性を称えるものです。「ルビー賞」に参加することによって、クラブが地元の地域社会とのつながりを持ち、ソロプチミストの使命についての知名度を高めるのを助けることができます。

2010年の連盟賞受賞者は、米国カリフォルニア州サクラメントで、女性のホームレスを終結させる「女性のエンパワーメント」プログラムを開設したリサ・カルプさんで、贈られました。日本からは、北海道東部で唯一のドメスティック・バイオレンス被害者シェルターを開設した長尾啓子さんらが推薦されました。

日本からの連盟受賞者には2005年の堀琴美さんがいます。堀さんは1997年にDVシェルターを開きましたが、これは虐待を受けた女性たちの民間運営シェルターとしては北海道で初めてのシェルターでした。

「暴力から逃れるためにやってくる女性は本当に勇気があります。なぜなら、恐ろしい危険を人生の新しいチャンスに変えたからです」と堀さんは語りました。

堀さんは現在、「福島県女性のための相談支援センター」の所長を務めており、法執行機関に働きかけ、DVから女性を守る法律の改正のためにも活動しています。「多くの市町村の男性の公務員は、これらの女性たちが経験した危険や恐れを理解できませんでした。ですから、ドメスティック・バイオレンスという問題について、私たちのほうから説明しなければなりません」と堀さんは語りました。堀さんらによる先駆的な活動の結果、ドメスティック・バイオレンスから日本の女性を守る最初の法律「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が2001年に施行されました。

日本でドメスティック・バイオレンスに関する理解を促進するための努力で、堀さんはSI/郡山から推薦され、彼女の設立したシェルターのために、国際ソロプチミストアメリカから5,000ドルの賞金を受け取りました。

● ヴァイオレット・リチャードソン賞

ソロプチミストの「ヴァイオレット・リチャードソン賞」は、ボランティアおよび地域社会奉仕活動をしている女子を表彰するプログラムです。鹿児島県の幸野絵美さんは、国際ソロプチミストアメリカの「ヴァイオレット・リチャードソン賞」の初の受賞者でした。

幸野さんは、高校の無線科学部の活動のために、SI/鹿児島 - 中央によって表彰されました。このクラブは、鹿児島県の辺鄙な島で必要とされている家庭電化製品の修理をするグループです。

絵美さんは、2002年にサンディエゴで開催されたSIAの第37回隔年大会で、スピーチをし、2,500ドルの賞金を受け取りました。この賞金は、無線科学部が新しい部品を購入するために使われました。幸野さんは次のように語りました。「社会のメンバーがボランティア活動をしているという特別な意識を持たずに他の人々を助けるようになって、『ボランティア活動』という言葉がなくなってしまう日が来ることを、私は望んでいます」

2010年は、ラオスの子供たちが学校に通うのを支援するため、高校のクラブを通じて資金調達活動に取り組んだ長野県の森山里菜さんらが日本から推薦されました。

このプログラムは、「米国組織役員協会 (ASAE)」の「アメリカ前進組織賞」表彰プログラムの「卓越賞」を受賞しました。

パートナーシップを築く

ソロプチミスト・クラブは、同じようなゴールや使命を持ったグループと協力することで、影響力を最大限に拡げることができます。日本の女性関係の組織を、以下にいくつかご紹介します。

- **アジア女性資料センター (AJWRC)**
ジェンダー関係の問題、抑圧や差別の廃止について討論、行動、ネットワーク作りを助けている。
所在地：〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 14-10 渋谷コープ 211
電話番号: 03-3780-5245
ファックス：03-3463-9752
Eメール： ajwrc@jca.ax.apc.org
ウェブサイト: <http://www.ajwrc.org/>
- **日本婦人団体連合会 (婦団連)**
加盟団体と力を合わせて、広範な女性問題に取り組んでいる。
所在地：東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-11-9-303
電話番号: 03- 3401-6147
ファックス：03-5474-5585
Eメール： fudanren@cocoa.ocn.ne.jp
ウェブサイト: <http://www16.ocn.ne.jp/~fudanren/syukai/syukai.html>
- **女性の家HELP (日本キリスト教婦人矯風会)**
ドメスティック・バイオレンスから逃れた女性と子供たちのための一時保護施設。
所在地：〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-23-5
電話番号: 03 (3368)-8855

ウェブサイト: <http://www18.ocn.ne.jp/~kyofukai/04fahelp.htm>

- **家族機能研究所**

ドメスティック・バイオレンス、児童虐待などの、家族機能の不全に由来する問題の研究、教育・啓蒙のための組織。

所在地: 〒106-0045 東京都港区麻布十番2-14-6 イイダビル2F

電話番号: 03(5476)6041

ファックス: 03(5476)6543

Email: iff@on.rim.or.jp

Web: <http://www.iff.or.jp/>

- **国立女性教育会館 (NVEC)**

男女共同参画社会の形成を目指した女性教育に関するナショナルセンター。

国内外の女性関連施設等と連携し、さまざまな事業や研修を実施したり、利用者に施設の提供をしている。

所在地: 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地

電話番号: 0493-62-6711

ファックス: 0493 62 6722

Eメール: admindiv@nwec.jp

ウェブサイト: www.nwec.jp

- **新日本婦人の会**

「より人間らしく豊かに生きたい」と願う女性のネットワーク。女性の権利、生活の向上、女性の解放などのために尽力している。

所在地: 〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20

電話番号: 03-3814-9141

ファックス: 03-3814-9441

Eメール: njwa@shinfujin.gr.jp

ウェブサイト: <http://www.shinfujin.gr.jp/>

- **人身売買禁止ネットワーク (Japan Network Against Trafficking in Japan)**

人身売買、女性に対する暴力、滞日外国人の人権擁護などの問題に取り組んできた全国の女性団体、人権団体、被害者支援シェルターや法律家、研究者が連隊したネットワーク。

所在地: 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学生生活科学部 戒能研究室気付 JNATIP事務局

Eメール: info@jnatip.jp

ウェブサイト: <http://jnatip.jp/>

- **「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク (VAWW-NETジャパン)**

女性の人権の視点から国際的VAWW-NETの協力のもと、武力紛争下における女性への暴力の問題、実状調査、被害者支援、このような暴力を防ぐためのキャンペーンやアドボカシー、提言活動を国内外で展開している。

所在地: 〒135-8585 東京都江東区塩見2-10-10

ファックス: (03)3477-0302

Eメール: vaww-net-japan@jca.ax.apc.org

ウェブサイト: <http://www1.jca.apc.org/vaww-net-japan/>

- **NPO 法人全国女性シェルターネット**
 全国の民間シェルター約 60 ヶ所がメンバーのドメスティック・バイオレンス・サポート・シェルターのネットワーク。
 ウェブサイト: <http://nwsnet.or.jp/index.html>
- **(財) 女性労働協会 女性と仕事の未来館**
 働く女性、女性の再就職を助けるのためのカウンセリングやセミナーなどを実施している。
 所在地: 〒108-0014 東京都港区芝 5-35-3
 電話番号: (813) 5444-4151
 ファックス: (813) 5444-4152
 ウェブサイト: <http://www.miraikan.go.jp/>
- **WEフォーラム (Women's Executive Forum)**
 女性経営者や女性管理職の異業種交流会。
 所在地: 〒107-8610 東京都港区南青山 4-20-19
 電話番号: (03) 3405-9150
 ファックス: (03) 3405-9159
 Eメール: yama@dsn.co.jp, wlf@dsn.co.jp
 ウェブサイト: <https://www.dsn.co.jp/wlf/index.html>

日本の女性は、貧困、ドメスティック・バイオレンス、性差別、セクシャルハラスメントといった問題に実際に直面しています。日本のソロプチミスト・クラブは、地域社会における女性と女兒のために変化をもたらす素晴らしい機会を持っています。ソロプチミスト・クラブと会員として共に活動することによって、私たちは日本と世界中の女性と女兒のためにプラスの変化をもたらすことができます。ソロプチミストのプログラムへの参加に関する情報や資料は、SIAのウェブサイトwww.soroptimist.orgの会員エリアのProgram (プログラム) セクションから、入手できます。詳細については、リジョンのプログラム協議会メンバー、または、連盟事務局のプログラム・サービス・シニア・ディレクターのローリー・ブレア (lori@soroptimist.org)まで、お問い合わせください。